

ねじりはちまき

2月 如月(きさらぎ) 立春 雨水の月になりました。

3日 節分、豆まきです。 4日 立春。 8日 針供養で、旧正月元旦が一緒です。

11日 建国記念日。 14日 聖バレンタインデー。 19日 雨水です。

今年は閏年なので29日までありますね。

春一番という風がありますね。日本海低気圧によって吹く風で、フェーン現象と
いう「山を越えて吹く、乾燥した熱風」をいうのだそうですが、火災や雪崩、雪解け
洪水などにもつながる風です。

立春前に吹いて春が近いことを告げることもありますが、4月上旬に春嵐となって、春
三、四番に吹くこともあります。

春一番で木の芽が緩み、春二番で花が咲き始める、まさに春を告げる風ですが、
もともと日本海の西の方の漁師や、農民たちがいい慣わしした一番、二番ですが、
戦後マスコミがしばしば使ったところから、日本中に広がった言葉だそうです。

寒さがまだまだ続きます。

十分ご自愛下さいよう、お祈り申し上げます。

幸田 常一



お世話になっております。

現在は本宮市の現場で、新築工事を2件お世話になっております。

2件とも、春には完成しますので、もう少しです。

また、大玉村の現場ですが、先日工事が始まりました。

こちらは住宅ではなく、店舗です。

今上陛下は125代（神話時代の神武天皇を初代として）の天皇である。その中で歴史上女性の天皇は8人・10代（再即位2人）の天皇がおられるが、即位された時代をみると、奈良時代までが6人・8代と多くみうけられる。まだ皇位継承をめぐってとかく混乱があり、不安定な時代であったということか。今回取り上げようとするのは、天皇の夫と共にパートナーとして国づくりに努め、夫亡き後は自ら即位して夫の遺志を受け継いで国づくりに励んだ「持統天皇」（41代のことである。実際に自ら治世を遂行した女帝として知られる。持統天皇の夫とは、天武天皇（40代）である。即位前天武天皇は大海人（オオアマ）皇子といい、持統天皇はウノノサララ姫という名であった。大海人皇子は舒明天皇（34代）を父として生まれ、ウノノサララ姫は天智天皇（38代）の娘として生まれた。現在皇位継承のあり方でいろいろ論議されているが、当時の女性天皇はいずれも男系である。

先ず天武天皇の時代（在位673～686年のことだが、時代は飛鳥時代末（奈良時代は710年から）で、壬申（じんしん）の乱（皇位継承の争い）で天智天皇の子・大友皇子側に勝利して即位する。天武天皇は在位の間、一貫して皇族だけによる皇親政治を行い、大臣の任命を行わなかった。その一方、官僚組織の整備に力を注ぐとともに、唐に倣って本格的な律令（法律による）国家の樹立に向け、飛鳥淨御原令の編纂を命じた。また、仏教への崇拝は歴代天皇と変わることなかったが、天皇の宗教的権威を高めるためにも特に伊勢神宮の祭祀を重視した。さらに、対外関係を意識した本格的な都（藤原京・現在の奈良県橿原市）づくりにも着手（676年）したが、在位期間中に完成を見ることはなかった。律令の法典制定も同様であった。律は刑法的なもの、令は行政法的なものを指す。

さて、天武天皇が崩御し、その後を継いだのが皇后であった持統天皇（686～697）である。当初は皇后のまま大政を総覽する称制（草壁皇子の即位を予定していたが、間もなく死去）を敷いたが、690年に即位した。天武天皇の時代、皇親政治のもと皇后として天皇を助けて政治に参画していたが、持統天皇は臣下が政治に参加する機会を設け、大臣も任命した。天武天皇の遺志を受け継いで先ず手がけたのは、飛鳥淨御原令の編纂であったが、689年我が国最初の体系的法典（全22巻・現存せず）である律令が出来上がった。草壁皇子の死去に伴って一区切りとせざるをえなかつた上で、律令のうち「令」のみの仕上がりとなつた。本格的な律令は701年（文武天皇の時代）の「大宝律令」を待つこととなるが、これで天武天皇が企図した律令編纂事業がようやく完成したといえる。飛鳥淨御原令について付け加えると、その戸令に則り今までいう戸籍づくりが命じられ、戸籍帖である「庚寅年籍（こういんねんじやく）」が作成されたのである。これは国家統治を行ふに際して不可欠のものである。

次に、持統天皇が遺志を継いでどうしてもやり遂げたい大事業は「藤原京」の完成と遷都である。その都は、唐の都・長安を模したもの（宮殿など政務を司る建物の位置は異なる）で、我が国最初の条坊制を布いた本格的な唐風都城である。遂に694年に完成し、その年の12月に遷都したのである。藤原京の規模は、後の都である平城京や平安京をもしのぐ、大規模なものであった。また、当時は天皇の宮は1代に限つてとされていたのに、藤原京は持統天皇、天武天皇、元明天皇と3代に亘つて都とされたのは異例のことであった。なぜこのような都を造営したのか。律令の制定といい、唐風都城の造営といい、国内向けの中央集権国家体制を確立し、安定させることを目指すと同時に、対外的（特に唐）にも一人前の国家として認めさせる狙いがあったのであろう。また、これらに加え、固有の歴史をもつ国であるとの「歴史書（史書）」の編纂ができればということはない、万全といえるわけである。実は、史書編纂は推古天皇時代以来たびたび試みられていたが、本格的

編纂までは至らなくていた。天武天皇の時代にも、編纂の詔が2度発せられているのである。これも是非やらねばならぬとの思いであったのであろうが、持統天皇の時代にはできなかつた。古事記は712年元明天皇に、日本書紀は720年元正天皇にそれぞれ撰上された。これで我が國の「史書」が誕生したのである。その後「日本書紀」が我が國の正史との位置づけがなされる。これで当時国家にとって必須とされた律令・都城・史書の三拍子がそろつたことになる。

ところで、持統天皇の時代、中央集権体制が整ってきたことを示す有力な遺跡が最近になり相次いで発掘されている。規格のしっかりした道路網が藤原京を起点として、全国に張り巡らされていたことが判明したのである。総延長6,300kmに及ぶもので、30kmほどが直線状になっているところもあるというのだ。例えば、九州と藤原京の間を馬（駅令）で跳ばすと3日間で行き来できたというのだから、時の中央政府の力を見せつけるのに十分だったろうし、万が一の対外的な戦への備えということもあったのだろう。

考えてみると、7世紀後半から8世紀前半までの時代は天皇を中心とする中央集権体制の確立と安定に向け、そして唐など大陸・朝鮮半島に対する我が國の在り様を毅然と示すうえで国づくりが急務だったということが伺える。そういう意味で非常に大事な時代だったように思われる。

一方「日本」という国号も、「天皇」という称号も天武天皇の時代に定め、用いられ、対外的に発せられた。この時代は歴史的にみて明治時代と同様に我が國の高揚期にあったといふべきかも知れない。付け加えると、日本最古といえる貨幣が铸造・発行されたのもこの時期だ。先ず「無文銀錢」が、次に「富本錢」（天武天皇の時代）が、その次が「和同開称」が発行された。貨幣铸造は唐以外では初めてのことだった。

持統天皇は702年、57歳で亡くなられた。そして天武天皇の天皇陵である野口王塚に火葬のうえ葬られた。夫婦ともに眠る。天皇が亡くなられて火葬に付されるのは初めてのことだった。

余談だが、漫画家の里中満智子さんは、32年もの長きに亘って持統天皇の物語「天上の虹」を連載してこられ、このほど連載を終えられた。お読みになった方もおられるだろう。里中さんは「この夫婦は史上最強のカップルである」とおっしゃっておられた。「最強」の意味するところは「国づくりの志（こころざし）を同じくし、それを成し遂げた夫婦」ということか。言われてみれば確かにそう思う。男女共同参画の先駆けか。小生も聖徳太子（実在しなかつたという説もあるが）の時代から持統天皇の時代にかけて関心をもっていたので、今回ほんの概要だが取り上げてみた次第である。皆さんの関心はいかがでしょうか。

ウメイチリン

間もなく節分。この原稿を書き始めた1月下旬、この冬2回目の大雪が降り、K市内は10数センチの積雪に見舞われ、大寒の中らしい毎日が続いております。

幸田建設の社報をご愛読の皆様方、いかがお過ごですか。

寒中のお見舞いを申し上げます。

お陰様で、私共も2人揃って元気で過ごしております。厳しい寒さの中、私は日課として、毎日の散歩を続けております。今年の目標である1日に2万歩を歩くことの目標は達成出来るのでは！と早くも自信を深めているところです。

この散歩の折に、散歩コースに紅梅と白梅の花が咲いているのを発見しました。

厳しい寒さの中、梅の花を眺めながら、江戸の昔、俳聖といわれていた松尾芭蕉の門人、嵐雪という人の俳句といわれている、

梅一輪 一輪程の 暖かさ

を、思い出しました。早春の寒さに耐えて凛と咲く一輪の梅は、人の生涯（厳しさに耐えて、始めて人生にも春が訪れる事の例え）を讀んだものとの解釈もされていますが、皆様はどのように解釈されますか。

しかし、私は近年、地球の温暖化現象（二酸化炭素の増加が主因）により、梅の狂い咲きを促進しているのではと杞憂しています。地球温暖化の要因は、化石燃料（石油・石炭）の大量消費が原因といわれています。

地球温暖化の悪影響は、皆様ご承知のとおり、

- ① 寒い地方の氷が溶けて海面が上昇する。
- ② 熱帯低気圧（台風）が発生しやすくなり、洪水や高潮などの水害が多くなる。
- ③ 内陸部が乾燥して砂漠化する。
- ④ 天候不順や病害虫の増加により、農産物の収穫が減る。
- ⑤ マラリア等の熱帯性伝染病が増える。

と、いわれております。現代の便利な生活を支えているのは、化石燃料の野放図な消費にあるといわれております。

今から5年前に発生した東日本大震災、これに伴い福島原発の重大事故により、不便な生活を（断水、停電、マイカーの給油に半日並んだこと。更に、今なお避難生活を続けておられる方々）を想い起します。

日常の便利な生活を捨てて、江戸の昔に帰れといわれても「ハイ、分かりました。」とは、素直にいうことは出来ません。化石燃料に頼らず、今の便利な生活が出来ないかとしみじみ思う次第です。

K・S 記

手洗い、うがいで風邪予防

最近、風邪ひきさんをたくさん見かけます。

風邪は人から移ったりしますが、感染ルートは様々で、風邪をひいている人の咳やくしゃみによる飛沫感染、空中に浮遊したウイルスを吸い込むことで移る空気感染、また電車のつり革などに付着したウイルスを触って感染する接触感染などがあります。

予防法としては、接触感染を避けるため、外出先から戻ったら手を洗うことが大切です。指先まで丁寧に洗うといいですね。うがいも、のどや口の中の粘膜へのウイルス付着の予防に効果があります。

帰宅後の、うがい、手洗いは習慣づけたいものですね。

また、疲れがたまらないように、食事や睡眠には気を付けたいものです。

食生活では、特に体の免疫力アップにつながるビタミン C や、鼻やのどの粘膜を強化するビタミン B2・B6(レバー、魚、乳製品、他)などを多く含む食品を、積極的にとるといいでしょう。

2月の旬♡食材

「しゅんぎく」

カロテン、ビタミン C、鉄分が多く食物繊維も豊富に含まれている
すばらしいお野菜です。

独特の香りがあるので、ちょっと苦手…という方もいますね。

しゅんぎくは、今の季節お鍋の材料として、欠かせませんね。

お浸しやごま和えもおいしいです。

ごま和えにすると、ごまの脂肪でカロテンの吸収率も高まるそうです。



2月3日は、節分

豆は魔を滅する「魔滅」に通じ、病気や災いを寄せ付けない力があるとされていますね。

イワシの頭をひいらぎに刺して、戸口に飾ると、災いが入り込まないといわれています。私の家では数年前、戸口に飾ったばかりのイワシの頭を自分の家のネコに食べられた、ということがあったので、高い場所に飾るようにしています。

節分草(せつぶんそう)

節分草という花があります。キンポウゲ科の多年草で、
節分の頃に咲く、ということから付いた名だそうです。
真ん中がブルーでその周りが黄色、萼が花弁状の白い
花が1つ開く、何ともかわんな花です。
寒空に咲いて、春を告げているようです。



<会社近況>

2月に入りました。この頃は暖かい日が続きますが、やはり風は冷たいですね。春の陽気を楽しむには、まだ時間がかかりそうです。

時折、寒さがぶり返すことがあり、体に堪えますが、ひんやりとした外気は自分の心を引き締めてくれるようです。

皆様、どうかお体大切にお過ごし下さい。

本宮市の新築工事の現場を2件、お世話になっておりますが、もう間もなく完成いたします。

大玉村の現場は、店舗の建設工事です。

こちらは3月末には完成いたします。

雪が少ないせいか、作業もしやすく予定通りに進んでおります。

たくさんの方々にお世話になって、何とか毎日頑張らせていただいております。完成まで、あともう少し。

気持ちを引き締めてまいります。

平成28年 2月5日発行

有限会社 幸田建設

<発行責任者>幸田久美

〒969-1204

本宮市糠沢字八幡1-1

電話、0243-44-3816

<後記>

先日めずらしく風邪をひいてしまい、のどがすっきりとしない日が続きました。そんなとき、外出先でのご飴をもらうことが何度もあり、1ことか2こですが、かなり嬉しかったです。(事務員k)